

ワーク・ライフ・バランスの実現と男性育児休業

～鳥取県内企業のイクボスの役割に着眼して～

経営学部 4年 田川 由華

今日の日本では、女性の社会進出に伴い、共働き世帯が増加している。しかしながら、日本企業での育児休業取得率は女性より男性が圧倒的に低いという問題が挙げられる。この現状として、「男性は育児休業を取りづらい」という職場環境が原因であるのではないかと考えた。男性の育児休業取得率が低いという問題に対して、本研究では、企業が社員の育児と仕事の両立を支援する「イクボス施策」について着目した。社員が選択できる働き方を企業が提供することを目的とし、イクボス施策が鳥取県内の中小企業でどのように有効に働いているかを調した。

調査は、2019年12月3日に鳥取県公安委員会指定 米子自動車学校、12日に株式会社エナテクスにヒアリングを行った。調査結果から、イクボス宣言を行うことで男性育児休業取得者の増加や、残業時間の減少につながったと考えられる結果が示された。また、これらの有効性が働いた要因として、上司からの声かけや相談ができる良好な職場環境と、会社方針がトップから名言されていることが挙げられる。

鳥取県内の中小企業内でのイクボス宣言は、女性も男性も育児休暇・休業を取得しやすい環境へと影響していることが示された。さらに、鳥取県内企業においても、社員の生活に合わせた働き方に価値を置く組織風土が、声かけやコミュニケーションをとる良好な職場環境を作りだし、ワーク・ライフ・バランスの向上につながっていることは本研究における新たな発見事項である。

今回の研究で明らかとなった、鳥取県内の中小企業におけるイクボス施策の有効性と成功要因は、今後の鳥取県内企業の育児休業取得率の向上に活かすことができると考えられる。